地歴公民(日本史)　立命館大学　全学統一方式（２／２実施）　１／２

＜全体分析＞

試験時間　80　分

解答形式
全問記述式
分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）
大問３題、小問 50 問（記述 35 問、選択 15 問）　記述と選択の割合はおよそ２：１で例年とほぼ同じ。
出題の特徴や昨年との変更点
本学では時代・分野の出題配分は日程によって流動的である。とりわけ考古学分野からの出題、未見史料問題の有無が各日程を特徴づけることになる。本日程では以下の通りである。
時　代：古代からの出題が 30%程度、次いで中世・近世がそれぞれ 25%程度、近代が 20%程度となり、原始・戦後からの出題はなかった。
分　野：文化が 60%程度、次いで政治が 20%程度、社会経済が 15%程度、外交 5%程度となっている。
その他トピックス
Ⅲ〔１〕藤原惺窩を扱った人物史は、2024 年度直前講習『関関同立大日本史』第２講〔Ⅲ〕にズバリ的中。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	記述 （設問） 選択 （用語４択） （史料４択） 〈史料〉	古代 文化	奈良・平安時代の仏教（一部史料） (a)はⓚ「皇后の為に誓願して、初めて薬師寺を興す」に着目して天武朝の出来事と判断したい。(b)下線部を称徳天皇と判断して「西大寺（西隆寺）」と解答したい。(d)は「破格の待遇を受けた僧」を道鏡と特定した上で 766 年から「法王」と判断できたかどうか。(o)は宇佐八幡宮の所在地豊前国から「㋓西海道」を選択したい。	標準
Ⅱ	記述 （空欄補充） 選択 （用語４択） （文章４択）	中世 文化	中世史研究における史料論 A「質入」・I「風俗画」の空欄補充は戸惑ったかもしれない。E「大乗院日記目録」も可。H「烏帽子」はやや難。(c)・(d)の文章 4 択は絵巻物に関する詳細な知識が含まれており難しかった。他の標準的な設問を確実に正解して得点につなげたい。	標準
Ⅲ	記述 （設問） （空欄補充） 選択 （用語４択） （文章４択） （史料４択） 〈史料〉	近世・近代 総合	近世・近代の思想家（一部史料） 〔1〕藤原惺窩　〔2〕熊沢蕃山　〔3〕本居宣長 〔4〕中江兆民　〔5〕吉野作造 (a)「㋐姜沆」・(i)「生野の変」はやや難だが、本学では注意したい。他は標準的な設問が多いので、とりこぼしに気をつけて高得点を狙いたい。(b)の文章４択では㋒「木下順庵に学んだ」人物で「湯島聖堂を建てた」のは徳川綱吉であり「大学頭に任じ」られたのは林信篤であるから㋒は誤文と判断できる。ただし㋓松平定信が「寛政異学の禁で」「異学教授を禁じた」のは湯島聖堂の学問所であることから㋓も正文と判断し難い。	易

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2025 年

＜学習対策＞

①一部に詳細な知識を問う出題がみられるものの、それに惑わされることなく、基本事項の理解を深めておくこと。
②出題の７割程度が用語記述問題である。正確に歴史用語を書いて覚える学習を心がけること。
③図版問題や地図問題への対策を怠らないこと。教科書や資料集などの写真・グラフ・地図などを積極的に活用して学習する習慣を身につけること。特に考古学分野では遺跡の所在地の都道府県名を覚えるとともに地図でも確認しておきたい。
④史料問題は頻出なので対策を怠らないこと。史料の空欄補充などがよく出題されるので、基本史料は音読するなどしてキーワードを覚えるようにすること。
⑤考古学分野など、同一テーマがくり返し出題される傾向があるので、過去問の対策を怠らないこと。

© 河合塾　2025 年